

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372001384		
法人名	株式会社ユニマットよそ風		
事業所名	しんさかえケアセンターそよ風 2階(こもれび)		
所在地	愛知県豊橋市新栄町字鳥瞰111番地		
自己評価作成日	平成24年10月1日	評価結果市町村受理日	平成24年12月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/237/index.php?action=kouhyou_detail%2010_022_kani=true&JigvosyoCd=2372001384-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号
訪問調査日	平成24年10月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様に関わる安全面、安心面の向上、毎日利用者様が笑顔で過ごされるような環境作りを行っている。また、リズムを保って生活していただきながらも、マンネリ化はしないようにうたを歌ったり、体操をしたり、工作をしたりなどして頂いて変化もつけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、管理者が町内会の会合に参加し、地域の方との協力関係を築いており、ホームの行事には協力が得られるまでになっている。さらに、ホーム協力医との関係も築いており、協力医が運営推進会議に出席して医療面における助言等を頂く機会が得られている。さらに、ホーム内は広々しており、利用者一人ひとりが好きな場所で、好きなテレビ番組を見たりと、思い思いに過ごすことができ、その中で、職員は食事の際には利用者とは話をしながら同じ物を食べ、穏やかな雰囲気をつくり、利用者の笑顔を引き出している。なお、ホーム管理者が交代して、訪問調査の時点で1か月程であるが、ホームでの現場経験を積んでおり、利用者・家族の状況の把握はできている。理念にも掲げている「利用者の笑顔が一つでも増えますように」を、職員共々業務に実現に向けて取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼でそよ風憲章を復唱して理念に基づいてサービスが出来るように心掛けている。	理念を毎朝、出勤者全員で唱和し、各フロアの事務所正面には、理念とホームの理念を掲示している。職員は、出勤時に理念を確認して意識を高めると共に、思いを共有しながらサービスの実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会や行事に参加し、交流を深めて事業所を知って頂くとともに地域の一員として生活していけるようにしている。	管理者は町内会の会合に毎月出席し、避難訓練や行事に参加し、お祭では獅子舞が立ち寄り建物の中まで入ったり、ホームの夏祭には多数の地域の方が参加し、交流を深めている。また、中学生の職場体験も受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会で勉強会を行ったり、地域の方との何気ない会話でも助け合えるような関係を作れるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方、ご家族様、包括の方に参加して頂き、話し合い、助言等を受けてサービスの向上に努めている。	家族の参加を増やす為に、会議を日曜や行事に合わせ開催し、活動状況・行事への取り組みなどを報告し、意見を得て対応に努めている。また、年1回、医師の参加もあり、感染予防対策について話し合い、インフルエンザの拡大防止に活用している。	ホームからは簡単な行事案内をお便りで送っているが、詳細な活動内容を報告をする事で、出席者にホームの取り組みを知って頂き、その取り組みによって家族との信頼関係と協力が強くなっていく事を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員会に参加して頂き、アドバイスを頂いたり電話にて相談し、現状を訴えサービスの向上に努めたり良い関係が築けるように努めている。	市担当部署では、市内の各ホームを担当する担当者がおり、当ホームの担当職員とは随時相談ができ、電話や出向いたりして、連絡を密に取りながら関係作りに努めている。また、市が行う研修会にも出席している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを基に勉強会をして身体拘束のないケアに取り組んでいる。	基本は身体拘束をしない方針で勉強会を行い、支援方法や対応方法を実践し、落ち着いた生活ができることを目指している。なお、玄関・ユニットは施錠しているが、外に行きたい方には付き添い外出を行い、納得して部屋に戻れるように対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会で職員の勉強会を行い、虐待防止に努めている。身体だけでなく言葉での虐待もありうる為、変化を見逃さず利用者様を守る為注意を怠らないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について勉強会を行いしっかり活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に基づいて説明をしてその都度疑問や不安等があればお答えして理解、納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員会で利用者様やご家族様の意見や要望を聞き、支援や改善に努めている。家族面談を行って意見や要望を聞き職員に伝え反映に生かしている。	家族会を年1回実施し、個別面談も行っているが、今後に向け、個別面談を増やすよう検討中である。さらに、ホームからの便りを毎月、職員のコメントを書き添え送り、相談苦情の窓口は、ホーム管理者と事業所センター長と2人を掲示し、相談し易くしている。	3か月に1回の家族面談を検討しており、家族との信頼関係を構築し協力を得ながら、意見をより、事業運営に反映できるように、その実現に期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム全体の会議を行い職員全員が参加できるような形をとっている。カンファレンスにおいて議題となる問題を幅広くあげている。良い意見は取り入れ実行するよう努めている。	会議を、各フロアー、ホーム、併設事業所全体とで行っており、合計月に2～3回は職員が話し合う機会をつくっている。さらに、職員に議題が与えられ、担当になった職員が主となり勉強会を行っている。また、管理者・センター長との個人面談の仕組みがある。	全職員に災害委員・衛生委員・食事委員などの委員が決められ学びやアイデアをとり上げている。今後も職員の学びや意見が取り上げられ実践されることを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がなるべく残業しないように勤務状況を把握し職員が不満にならないような職場環境を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員がスキルアップできるように研修に行っている。教育係を置き職員の教育に力を入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年に数回同業者の方と交流する機会がある為、意見交換をしてサービスの向上に繋がるように意見を取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御本人様だけでなく御家族様としっかり話をし現在何が一番良いサービスなのかを見極め安心してサービスを受けて頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様の要望をお聞きし当施設での対応できる点においてよくお伝えし、お互いの誤解など生じないよう信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人様、ご家族様が求めている支援を把握するよう十分な話し合いとより詳細なアセスメントを行っている。必要時には他のサービス利用も参考にして頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に笑ったり悩みを相談したりして利用者様と良い関係を築いている。人生の先輩として尊敬しお互いに信頼関係を築く事に心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様と情報を共有し、ご本人様を共に支える援助者同士としての部分において共に考え、関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの場所(美容院)などに定期的に行かれています。知人や友人の方など訪問して頂きやすい雰囲気作りを行っている。	友人・親戚の訪問を受け入れ、次の訪問を約束をしたりしている。利用者の生活歴を把握し、墓参り・法事・外泊等、家族の協力を得て支援し、年賀状・暑中見舞いも出し、希望者により馴染みの美容院・床屋にも通い、関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の性格を把握しながら利用者様同士関わり合い良い関係が築けるように努めている。利用者様間で孤立せずかつトラブルがない関係作りを職員だけでなく御家族様とも協力しながら毎日楽しく生活して頂けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移られる希望があった際、施設探し相談窓口の紹介など協力的に対応に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様よりお話を聞いたり、日々の生活での観察、ご家族様からのお話を基にカンファレンスを行いご本人様の希望により近い生活を支援させて頂いている。	利用者の状態により、本人・家族からの話やセンター方式も活用し、思いや意向を把握し、アセスメント表を作成している。また、全職員の気付きをメモ用紙に書いてもらい、それを活用しながら話し合う機会をつくり、全員で情報を共有するように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	各利用者様の生活歴を把握しその環境になるべく近づけるようなサービスを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的なバイタルチェックを行い心身状態の確認と見守りを行っている。何かあれば主治医に相談し、各職員がどう感じるかの共有、把握をできるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様本位のケアができるようにご本人の意見やご家族様と話し合いその方に合った最適なケアになるように努めている。	モニタリングは、月1回、担当者が記録し、6か月毎に計画を見直している。カンファレンスでは、全職員で利用者・家族の思いや意向を話し合い、適切な支援ができるように努めている。また、課題点等がある方については、その都度話し合い、見直しにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の介護経過記録を記入し引き継ぎにて情報を共有し介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人のニーズにできる限り応じる事が出来るよう他の部署、事業所との連携を図り、柔軟に支援させて頂くように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人一人の地域資源の把握量は乏しい為、職員全員で情報を持ち寄り資源の把握に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週1回の訪問看護と協力病院の月1回往診があり、必要に応じて受診と往診を行っている。いつでも連絡できるように協力して頂いている。	かかりつけ医の受診は家族が行っているが、内科受診や急変時はホームも対応している。往診は月1回行われ、協力医(内科)による家族からの相談受付の用意もある。なお、今年度より、週1回の訪問看護もとり入れ、柔軟な医療連携に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月4回の訪問看護で利用者様の状態変化の相談をして往診の際、主治医に伝えて適切な支援が受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院した時、家族や担当医師と情報交換し早期に退院できるように相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時から施設での対応範囲などの説明をさせて頂いている。ご家族様と情報交換し必要に応じて当施設で対応しかねない場合についても説明させて頂いている。	看取りは行わない方針であり、契約時や家族面談時にも繰り返し話し合っており、その上で意向を確認し、特養施設への入所申し込みを行っている方もいる。なお、管理者が交代したこともあり、本人、家族がどのような意向を持っているかは、再確認が必要である。	看取りを行わない方針の為、特養への入所移行を支援しているが、利用者、家族にとって一番良い方法を共に考える事で、ホームで安心を持って暮らせるよう、継続した検討に期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変等の緊急時に対応できるように主治医による心臓マッサージの講習を受けている。緊急時のマニュアルがあり会議で対応を確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜勤時の避難も含め年3回の避難訓練を行っている。運営推進委員会で災害時の協力を依頼している。職員全員が避難訓練に参加できるようにしている。	併設通所介護と合同で2回、ホームのみ夜間想定で1回訓練を実施している。夜間時の対応マニュアルを掲示し、一目で判るようにしている。また、地域の方へ災害時の協力を依頼し、備蓄担当がフロア毎に、食料品・水の確保を行っている。	合計年3回の避難訓練をしているが、夜間は一人での対応となるため、通報装置の扱い方など、細かな部分に至るまで全員が習熟されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お客様である事、人生の先輩として尊敬し、ご家族様よりお預かりしている大切な方として対応に心掛けています。	職員の対応で気になった事は注意を促したり、個別に話し合う機会をつくっている。また、排泄時は、外で待つようにし、自室の鍵かけも任せて尊重し、利用者同士の会話も傷つけ合う事がないよう、職員が気遣いし会話が弾むように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が自己決定できるように、また、職員本位にならないようにしている。常にお話を傾聴するようにしている。夜勤時に夜眠れなく話し掛けてきて下さる利用者様に時間を掛けゆっくりと落ち着いた雰囲気の中傾聴するように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員本位にならないように利用者様が安心して生活できるように支援している。就寝時間や起床時間など一人一人のペースに合わせた声掛けをし、ケアしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服装を着て頂けるよう声掛け、見守り、一部介助させて頂いている。ご本人様の希望される事を第一として努めさせて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	御一緒に手伝って頂いている。一人一人の能力に応じての役割を担って頂き、自己のないよう声掛け、見守り、一部介助させて頂いている。	ホームから買い物に出かけ、調理等に参加している利用者もいる。嗜好やアレルギー等に気を付け、更にトマトの皮をむく等、細かい所まで配慮している。また、食事の際には職員も隣に座り、利用者同士の会話に入り、食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様により食事量、食事の内容、食べやすい大きさにして利用者様の負担にならないように提供させて頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声掛け、介助を行っている。夕食後に利用者様の義歯をポリデンで洗浄させて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時間のトイレ誘導の声掛けをさせて頂いたり、排泄表を記録し、排泄パターンを把握して自立に向けた支援を行っている。	自立の方を含む全員の排泄状態を記録する事で排泄パターンをつかみ、適切な声掛けのタイミングを話し合い、紙パンツから布パンツへの移行等、自立支援に取り組んでいる。また、排便は臭いや下着の汚れ具合で確認し、体調の把握にも努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定時のまめな水分補給、トイレの声掛け、誘導、体操と便秘予防に努めている。便秘が続く時は主治医に相談し指示のもと排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴が出来るよう準備している。時間は午後からとなくなってしまっているが入浴願はご本人様の希望に沿っている。体調管理も含め入浴前にはバイタル測定を行っている。	ユニット毎に浴槽を2か所設置し、日曜日も含め毎日入浴している。拒否の方にも無理強いせず、職員間で話し合い工夫している。また、好みの湯温や汚れ具合を見て入れ替える等調節し、行事担当者が計画した季節の行事として、菊の花を入れたりして楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して就寝して頂くように声掛け、他の利用者様とのプライバシー、騒音などに配慮している。定期的に布団を干すなどして気持ちよく眠れるように心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医の指示のもと個別の服薬に対する理解、服薬ミスの防止に努めている。状態の変化に応じて早期に主治医に報告し、指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	買い物に行かれたり、料理作りを一緒にされたり、外出をして気分転換をして頂いている。個々の生活歴などを生かした役割のあるメリハリを持った生活を送って頂けるよう楽しみ、やりがいを含めた支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	御家族様の協力のもと外出の機会が設けられており、施設側でも行事、買い物など利用者様の体調とその日の気分に合わせて天候などに配慮し外出させて頂いている。	ホームでは、毎日の散歩、美容院、買い物等、希望者は家族の協力で財布を持ち使っており、外出ついでにドライブを楽しむ事もある。また、豊橋公園へ毎年、花見・紅葉に出掛け、今年は主治医の医療機関の庭の桜を見に遊びに行き過ぎている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	大きな金額は金庫に保管させて頂いているが個人が満足するよう御家族様の協力を得て財布を持たれている方もいらっしゃる。また、そのお金より買い物をする方もいらっしゃる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族様に理解、協力を頂き電話、年賀状、暑中見舞いなど、利用者様に御家族様との交流を図れるようご希望される時など時々によって支援させて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温や共有スペース、キッチン、トイレの清掃保持、整理整頓に努めている。照明には電球色を使用している。また、季節ごとの飾り付けを行っている。	食事用のテーブルの場と、テレビを囲むソファの場があり、なお空間のある広めのフロアの一角に厨房が配置され、調理の様子が見える。利用者は好みの場でテレビを見たり、お喋りしたり、自室のベッドで横になったりと、自由にくつろいでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのソファで休まれたり、折り紙、体操、歌などをされ穏やかな雰囲気の中過ごされている。また、職員の方も利用者様が安心して過ごされるような環境作りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御本人様、ご家族様の意見のもとに入居前に使用されていた物、個々にあった使い勝手が良い物を揃え心地よい空間作りに努めている。	掃除は利用者と職員が一緒に行い、広めの収納スペースがある為、物を収納でき清潔感がある。馴染みの物の持ち込みは自由で、趣味の模型・お孫さんの習字・ぬいぐるみを飾ったり、タンス・ベッド等を置き、居心地良い居室づくりに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々における安心で快適な環境作りに気を配り毎日の生活における危険因子を把握し取り除き事故防止に努めている。		

(別紙4(2))

事業所名 しんさかえケアセンターそよ風

目標達成計画

作成日: 平成 24年 11月 30日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	町内会等に参加はしており、定期的に交流しているが、情報発信ができていないので、新聞等を作成し、情報を発信する。	3ヶ月以内を目標に、ツールを作成する。	ツールの作成 担当者決め	3ヶ月
2	2	ご家族より、昼食のメニューを知りたいと言われる。	定期的にその風便りに写真付きの昼食をのせる。	担当者決め	1ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月